

《一》 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数制限のある問題は、句読点も一字に数えます。)

生物の時間はエネルギー消費量で変わるのですが、生物はエネルギー消費量をみずから変えることにより、積極的に時間を操作しているのだと私は考えています。

ヤマネ(山鼠)は冬眠します。同じサイズの冬眠しないものと比べると、ヤマネはずっと長生きですが、冬眠中にはエネルギーをわずかに使わないので時間がゆっくりになり、その分、寿命も延びるのでしよう。

① だから長生きしたけりやずつと冬眠してればいい、とはならないでしょう。冬眠するのは、時間を止めて、冬という暮らしにくい季節を、やり過ぎすためです。長生きしたいからではありません。

植物だってそうです。種は、何年でもとっておけますね。種はほとんどエネルギーを使っていません。植物は種という形で時間を止めているのです。そして良い環境になったら、芽吹いて生長し、花を咲かせます。六〇年ほど前になりますが、大賀一郎先生が、二〇〇〇年以上前の遺跡からハスの種を掘り出して、それを出芽させるのに成功しました。今、いろいろなところで、このハスの子孫が花を咲かせています。種は二〇〇〇年もの間、時間を止めていたのです。

ですから、長生きしたかったら種のままでいればいいわけですが、それでは生物として、生きた意味がないでしょう。「一粒の麦もし地に落ちて死なずば、ただ一つにてあらん、死なば多くの実を結ぶべし」。これは聖書の言葉ですが、一粒の麦は死ななかつたら、それだけでおしまいです。自分の蓄えたエネルギーを注ぎ込んで生長して花を咲かせて、次世代をたくさん作る。わが身をすりへらして子孫をつくっていくところに、生物として意味のある時間が流れるのです。

だからといって、種の時間が、まったくの無意味というわけではありません。植物は、待つ時間、生長する時間、花開く時間と、さまざまな質の違う時間を、一生の中で作り出しています。結局、② 時間を操作して生きているのだと思います。

昆虫は、卵、幼虫、蛹、成虫と、変態しながら大きくなります。たとえば卵で越冬する。幼虫の時代はあまり動きまわらずに、ひたすら食って大きくなる。蛹ではじつと動かず体を作りかえ、親になったら羽をはやし、エネルギーをどんどん使って異性を求めて飛びまわり、子供を作る。それぞれの時期でエネルギー消費量が大きく違いますから、時期ごとに違う時間が流れているのでしよう。

生物においては、エネルギーを使うと時間が流れます。使わなければ止まる。だから一歩踏み込んだ言い方をすれば、「生物はエネルギーを使って時間を生み出している」のではないのでしょうか。エネルギーをたくさん注ぎ込めば速い時間をつくり出せる、エネルギーを少なくすればゆるやかな時間が生まれる。

イメージとしてはこうです。生物はおのおの、時間のベルトコンベアを、エネルギーを使って自分で回している。ネズミはエネルギーをたくさん使って③ ベルトを速く回す、ゾウはゆっくりと回す。冬眠中はほとんど回さない。生命の時間とは、かように※アクティブなものだと思うのですね。

これに対して物理学の時間は、万物が同じベルトコンベアに載せられて運ばれて行くイメージです。われわれは時間に対して何もできません。いわば時間の奴隷。唯一できるのは、時間の④ ベルトにどれだけ乗っていられるかだけ。だからこそ、今の私たちのように、どんな状況であれ、できるだけ長く乗っている方がいいという価値判断しかできなくなってしまうのでしよう。

この万物共通の時間にただただ流されていくしかないという感覚が、じつに重たく私たちにのしかかっているような気がするのですね。⑤ 生きる上での重荷です。私は、時間も操作できるんだ、そして必ずしも長生きだけがいいわけじゃないんだと気づいた時、なんか⑥ の荷が軽くなった気がしました。

(本川達雄『生物学的文明論』より)

※アクティブ——積極的に活動的なさま。

問一 傍線部①「だから長生きしたけりやずつと冬眠してればいい、とはならない」と言えるのはどうしてか。説明しなさい。

問二 傍線部②「時間を操作して」とあるが、生物はどのようにして、時間を操作しているのか。その説明になるように、次の空所にあてはまる表現を考えて答えなさい。

生物は、エネルギーを	ことで、時間を
また、エネルギーを	ことで、時間を
また、エネルギーを	ことで、時間を

問三 傍線部③と傍線部④の「ベルト」は、どう異なるか。百二十字以内で説明しなさい。

問四 傍線部⑤「生きる上での重荷」とあるが、この重荷を背負って生きるとは、私たちがどういう状態で生きるということか。八十字以内で説明しなさい。

問五 空欄 ⑥ には体の一部分を表す語が入る。その語を答えなさい。(ひらがなでも構わない。)(四十五点)

《二》 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数制限のある問題は、句読点も一字に数えます。)

日本の女性で、制服として洋装をしたのは看護婦がはじめてだといわれている。日本赤十字の従軍看護婦がリリしい制服を着たところは、あるいは武士が袴をはいて①しやつちよこばつたときの気分②に③ていたのかと思う。

私は小学校へあがるまえにジフテリアで一回、肺炎で一回死にそこなっている。一年生のとき赤痢で長く病院にはいつていたことは、すでにいった。それ以後、幾度も病院にはいつたり出たり、いままでよくも生きてこられたと、自分も思い弟妹や親類縁者も思っている。それだけ看護婦さんの厄介になったことは、ひととおりでない。そのことが、変に看護婦さんの白衣に関心をもつようになった原因であろう。糊のきいたごわごわした白衣で、さつそうと歩いている看護婦を見ると、みんなきれいにみえてしまうのである。

きものが制度としての意味をもっているのを私にはつきり教えてくれたのも看護婦の白衣であつたらう。われわれは生まれると産衣を着せられる。そして、一定のとしに達すると昔は元服とよばれて成年者となった証拠をきもので見せたのである。七・五・三などという子供のための④イワイもあつて、⑤親たちはきものために頭をつかわされる。結婚や葬式のきものはもちろん特別なものである。

また職業によってもきものは区別されている。坊主は袈裟ころも、職人ははつぴももひき、そして看護婦は白衣というぐあいである。これらは人間が社会生活をいとなむときに、したがわなければならない一種の約束ごとである。坊主が、はつぴとももひきで葬式へやってきて腹がけのどんぶりから数珠を出したのでは⑥会葬者がおさまらないであろう。

われわれは日本という一つの社会の中に生まれたので、生まれたとき以来、その制度的な人間関係の中にいやおうなしにはいりこまねばならぬようにさせられてきた。それは、ゆるやかな強制だから、通念を破った我儘かってなきものを着ても所罰はされない。しかし、あまり変わった風態をすれば、狂人と思われるだけである。「裸で道中なるものか」とは古くからのいつたえである。裸で道路上を歩いていたら、たぶん百メートルと歩かぬうちに警官につかまってしまうだろう。法律の条文は知らないが、風俗壊乱でも、軽⑦ハンザイでもたぶん取締られるだろう。それよりまえに狂人として、保護されてしまうにきまっている。それは文字どおり裸で道中がならない意味だが、同時に社会人として生きていくには、かならずなんらかのきものを着なければならぬことを意味していた。それにとどまらず⑧「 」といわれる。なか身がおそまつでもきものが上等だとなく人柄まで上等にみられてくる。きものがかえつてなか身である人間の値うちまできめかねないのである。

パリから日本へ帰ってくるときになって、しゃれた服を急に買いこみ、それを着て帰国した友人の重苦しい気分は、私にもよくわかる。ひとはみなのよしあしで、待遇をかえやすいから、日本では必要以上にきものに気をつかわなければならない。その必要のなかったフランスを彼がなつかしがるのも無理はない。

日本で特にきものを氣にするのは、ひとの目を氣にする恥じの文化が、いまだに支配的だからであろう。ひとのやるように、自分もまねして、同じようなものを同じように着ていれば大きなあやまちはないと、ことなかれ主義のひとたちは考えている。封建時代に士・農・工・商の身分が固定され、その制度をきもので規制した伝統がいまだに人びとの心の中に残っているのであろうか。

明治維新の改革が経済的に資本主義への道をひらいたにかかわらず、その資本主義がフランス革命などちがって政治的には天皇制と抱きあってしまったため階層と身分も職業とからみあって、複雑なヨウソウを見せることになった。職業に貴賤の別はなく、四民は平等だと、口でいうひとは多いが、公卿を別格として士・農・工・商と貴賤の別を確保してきた武士の統制が、かんたんに変化するものではなかった。

きものは古代の位階制を服飾であらわす手段であったとき以来つねに、社会の上下関係をあらわすシンボルであった。王朝から鎌倉時代へかわったとき、中世への転化につれて武士風俗へと支配的なものが変わった。徳川時代になって商業がさかんになり、城下町が繁栄するにしたがい消費経済の拡大が職業の分化をうながした。そしてそれぞれの職業に必要なきものがシンボルとして階層制の中にくみこまれてきた。明治になって、また一つの大きな変革が、きものの制度的ソクメンをゆさぶった。洋風をとり入れることによって、ちがったシステムが生まれたのである。しかし、明治天皇が洋服を着ることによって、範を示したということ自体が、唐制をとり入れたときの古代の文化輸入のパターンそのままであった。だから基本的な点では、なかなか変革できなかったのである。

(戸井田道三『きものの思想』より)

※看護婦——女性看護師のかつての呼び名。

腹がけ——胸から腹をおおう職人の作業着。

前に「どんぶり」という物入れがついている。

所罰——「処罰」と同じ。

風俗擾乱——社会のよい風俗や習慣を破壊し混乱させること。

公卿——貴族のこと。

位階——官職において個人の地位を表す等級のこと。

範を示した——手本を示した。

唐制——中国の昔の王朝である唐の制度。

問一 傍線部①「しゃつちよこばった」の意味として、次の中から最もふさわしいものを選び、符号を書きなさい。

イ さつそうとして軽快な態度

ロ いかめしく改まった態度

ハ ひかえめで人目をさける態度

ニ わざとらしく出しゃばった態度

ホ いつも通り落ち着いた態度

問二 傍線部②「親たちはきものために頭をつかわされる」とあるが、それはなぜか。次の中から最もふさわしいものを選び、符号を書きなさい。

イ 日本では特別な節目の度に新しい服装が必要で、そこにかかる費用のために頭が一杯になるから。

ロ 日本では子どもの将来が、小さい時のきものよしあしによって完全に決まってしまうから。

ハ 日本では職業によってきものは区別されていて、親の職により決まった服の準備が必要だから。

ニ 日本ではきものが制度としての意味をもっていて、その強制をはみだすと取り締まられるから。

ホ 日本では恥じの文化がいまだに支配的で、ひとはみなりのよしあしで待遇をかえやすいから。

問三 傍線部③「会葬者がおさまらないであろう」とあるが、それはなぜか。八十字以内で説明しなさい。

問四 空欄④を補うことわざ・成語として、次の中から最もふさわしいものを選び、符号を書きなさい。

イ ぼろをまといど心は錦

ロ 坊主憎けりや袈裟まで憎い

ハ 袖ふれあうも多生の縁

ニ 馬子にも衣装

ホ 無い袖は振れない

問五 傍線部⑤「基本的な点」とは何のことか。三十字以内で答えなさい。

問六 傍線部⑥のカタカナを漢字に改めなさい。

《三》 次のⅠ・Ⅱの問いに答えなさい。

Ⅰ 次の①～⑩の傍線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- ① 各国の物価のシヒヨウ。
- ② 組織には必ずジヨレツがある。
- ③ 敵のシュリヨウが姿を現した。
- ④ 全権をイニンする。
- ⑤ 税制改革は国家の一大アンケンである。
- ⑥ 彼らはヒキこもごもの思いであった。
- ⑦ 火にかけたフライパンの水滴がジヨウハツしていく。
- ⑧ ノウガクは日本の伝統的な演芸である。
- ⑨ ボウエキを自由化する。
- ⑩ かわいい子犬をヒロった。

Ⅱ 次の⑪～⑮の傍線部のカタカナを漢字に改め、四字熟語を完成させなさい。

- ⑪ フンコツ碎身
- ⑫ コウガン無恥
- ⑬ シンシヨウ必罰
- ⑭ 一騎トウセン
- ⑮ フカ価値

